

衆議院厚生労働委員会ニュース

平成 26. 4. 18 第 186 回国会第 13 号

4 月 18 日（金）、第 13 回の委員会が開かれました。

1 ①難病の患者に対する医療等に関する法律案（内閣提出第 24 号）

②児童福祉法の一部を改正する法律案（内閣提出第 25 号）

- ・田村厚生労働大臣、土屋厚生労働副大臣、赤石厚生労働大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・とかしきなおみ君外 5 名（自民、民主、維新、公明、みんな、結い）提出の①及び②に対する修正案について、提出者大西健介君（民主）から趣旨説明を聴取しました。
- ・高橋千鶴子君（共産）提出の①及び②に対する修正案について、提出者高橋千鶴子君（共産）から趣旨説明を聴取しました。
- ・高橋千鶴子君（共産）提出の①及び②に対する修正案に対し、国会法第 57 条の 3 の規定により内閣の意見を聴取したところ、田村厚生労働大臣から、「反対である」旨の発言がありました。
- ・両案及び各修正案に対し、中根康浩君（民主）及び高橋千鶴子君（共産）が討論を行いました。
- ・①に対する高橋千鶴子君（共産）提出の修正案について採決を行った結果、賛成少数をもって否決されました。（賛成－共産 反対－自民、民主、維新、公明、みんな、結い 欠席－阿部知子君（無））
- ・①に対するとかしきなおみ君外 5 名（自民、民主、維新、公明、みんな、結い）提出の修正案について採決を行った結果、全会一致をもって可決されました。（賛成－自民、民主、維新、公明、みんな、結い、共産 欠席－阿部知子君（無））
- ・①に対する修正部分を除く原案について採決を行った結果、全会一致をもって可決され、本案は修正議決すべきものと決しました。（賛成－自民、民主、維新、公明、みんな、結い、共産 欠席－阿部知子君（無））
- ・②に対する高橋千鶴子君（共産）提出の修正案について採決を行った結果、賛成少数をもって否決されました。（賛成－共産 反対－自民、民主、維新、公明、みんな、結い 欠席－阿部知子君（無））
- ・②に対するとかしきなおみ君外 5 名（自民、民主、維新、公明、みんな、結い）提出の修正案について採決を行った結果、全会一致をもって可決されました。（賛成－自民、民主、維新、公明、みんな、結い、共産 欠席－阿部知子君（無））
- ・②に対する修正部分を除く原案について採決を行った結果、全会一致をもって可決され、本案は修正議決すべきものと決しました。（賛成－自民、民主、維新、公明、みんな、結い、共産 欠席－阿部知子君（無））
- ・両案に対とかしきなおみ君外 6 名（自民、民主、維新、公明、みんな、結い、共産）から提出された附帯決議案について、井坂信彦君（結い）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。（賛成－自民、民主、維新、公明、みんな、結い、共産 欠席－阿部知子君（無））

（質疑者及び主な質疑内容）

大西健介君（民主）

- ・医療費助成の対象疾病の要件については、希少性の要件を外すことを含め、今後も見直しが行われるか。
- ・鼻マスク・顔マスクを介した人工呼吸器を使用する ALS 患者についても気管切開口を介した人工呼吸器装着者と同じく医療費の自己負担限度額を 1,000 円とすべきではないか。
- ・難病患者には医療機関への交通費も大きな負担であることから、交通費の助成や障害者手帳制度を参考とした運賃割引などの支援が必要ではないか。

中 根 康 浩 君 (民主)

- ・高額な医療を継続することで軽症を維持している患者は、特例があっても一般の患者より医療費負担が重くなる可能性があることから、医療費の多寡にかかわらず医療費助成の対象とすべきではないか。
- ・新たに障害者福祉サービスの対象となる難病の範囲については、難病の指定と連動して決めるのではなく、支援の必要性に応じて決めるべきではないか。
- ・難病に係る専門性を有する難病指定医とかかりつけ医との違い、難病指定医が地域間格差なく確保できるかどうかについて伺いたい。

井 坂 信 彦 君 (結い)

- ・難病の医療費助成の対象疾病となる要件を、生涯治療を要する疾病であること、高額な治療費を要する疾病であること、患者に十分な資力がいないことの3つに見直すよう検討すべきではないか。
- ・政府が希少な症例を収集するために難病の要件として希少性は外せない主張することと、難病患者データの登録率が6割程度であることは矛盾するのではないか。
- ・難病患者の就労促進に資するよう、難病患者の就労状況等の調査をすべきではないか。

高 橋 千 鶴 子 君 (共産)

- ・難病患者等に対する障害支援区分認定に係る厚生労働省のマニュアルにより、指定難病でなくとも症状に応じて支援区分認定をすることが可能であり、障害福祉サービスを利用できるようにして良いのではないか。
- ・難病相談・支援センターの運営や都道府県独自の難病支援策について、国は何らかの支援を行うべきではないか。
- ・小児慢性特定疾病の医療費助成について、難病の自己負担限度額の2分の1とするのではなく、もっと患者負担限度額を引き下げるべきではないか。

足 立 康 史 君 (維新)

- ・難病対策は厚生行政の中でも特に税金を投入する合理性

2 議案の撤回許可に関する件

- ・介護従事者等の人材確保に関する特別措置法案（柚木道義君外5名提出、第183回国会衆法第27号）の撤回を許可することに決しました。

3 地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律案（内閣提出第23号） 介護・障害福祉従事者の人材確保に関する特別措置法案（中根康浩君外7名提出、衆法第10号）

- ・田村厚生労働大臣並びに提出者中根康浩君（民主）からそれぞれ提案理由の説明を聴取しました。

が高い分野であると考えているが、厚生労働大臣の認識を伺いたい。

- ・希少性については国内の患者数だけで判断せず、世界的な難病研究の動向や患者数を踏まえて判断すべきではないか。
- ・難病の研究の国際的な連携に関する取組の現状について伺いたい。

清 水 鴻 一 郎 君 (維新)

- ・短期集中特別訓練事業の入札問題に関し、現在の調査状況について、また、再々入札が不調に終わった場合、事業をどのように進めていくのか伺いたい。
- ・医療費助成の対象となる難病は幅広く認めた上で、重症度によって支給対象を線引きするべきではないか。
- ・地方自治体における小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の実施をどのように担保していくつもりか伺いたい。

重 徳 和 彦 君 (維新)

- ・指定難病の要件の一つである希少性について、患者数を人口の0.1%程度以下とすることが予定されているが、その根拠は何か。
- ・疾病が生命にかかわることや重症の度合を判断基準に医療費助成を行うべきだと考えるが、厚生労働大臣の見解を伺いたい。
- ・高齢化により介護が必要となる難病患者への対応について、厚生労働大臣の見解を伺いたい。

中 島 克 仁 君 (みんな)

- ・繊維筋痛症などの難病について、医師の初期診断や症状の理解が重要であることから、診療例のガイドラインを作成するなど医療者への情報提供や指導を行うべきではないか。
- ・独立行政法人日本医療研究開発機構が難病の研究の中心的役割を担うべきだと考えるが、厚生労働大臣の見解を伺いたい。